■安全安心

Q. 外国人住民が増える中、ごみの分別など生活ルールの周知について、市の考えは？

A. 外国人住民の増加状況を踏まえ、ごみの分別方法など、生活に必要な情報の多言語対応を検討します。

Q. 豪雨時の道路冠水や危険箇所を、分かりやすく確認できないか？

A. 国、県、市が提供する情報を市民が個別に探すのではなく、市内の危険箇所を分かりやすく把握できる仕組みが必要だと考えています。地域の人から寄せられる現場情報も生かし、迅速な情報発信につなげてまいります。

Q. 電気代を心配してエアコンの使用を控える高齢者のため、地域の集会所をクーリングシェルターとして活用できないか？

A. 暑い中でエアコンを控えることは、熱中症の危険があります。エアコンを備えた施設をクーリングシェルターとして開放することは重要であり、電気代の負担を含めて検討していきます。

■つながり

Q. 若者が地元で働き、暮らし続けられるよう、雇用の場を確保してほしい。学生、女性、シニアなど、幅広い世代が地域や産業の担い手として活躍できる環境を整えてほしい。

A. 企業誘致や地域産業の育成により雇用の場を確保するとともに、地元企業や市の取組を継続的に発信していきます。多様な世代が地域や産業を支える人材として活躍できる環境づくりを検討していきます。

Q. 2040 年に向けて、どのように雇用を創出していくか？

A. 企業誘致に加え、地域資源を生かした産業の育成や、市内企業の成長を支えることが重要です。市、企業、経済団体などで連携し、地元で働きたいと思える環境づくりを進めていきます。

Q. 「有田みかん」は知られていても、「和歌山県の有田」の認知度が十分ではない。どのように発信していくべきか？

A. 「和歌山・有田」を明確に打ち出し、世界農業遺産、石積みの景観、みかん畑、市の歴史や地域の人物などを、一つの物語として伝えていくことが重要だと考えています。

Q. 地元企業が移転・事業拡大を検討時に、災害リスクの低い工業用地を確保できないか？

A. ENEOS 和歌山製造所周辺では、新たな土地活用の可能性があります。GX 戦略地域としての企業誘致を検討していますが、既存設備の撤去などには期間を要するため、中長期的な視点で取り組む必要があると考えています。

■健やか

Q. 子育て支援制度や WakuWaku の情報など、充実した支援制度が十分に知られていないのでは？

A. 制度を必要とする世代に情報が届いていないことは課題です。対象者に合った媒体や方法を検討し、周知を強化していきます。

Q. 雨の日や暑い日にも、子どもが安全に遊べる場所を確保してほしい。

A. 子どもの遊び場について、安心して過ごせる環境づくりを進めていきます。

Q. 夜間に子どもの体調が悪くなった際の受診先・相談先を、分かりやすく案内してほしい。

A. 夜間の受診先や相談窓口について、保護者が必要なときに確認できるよう、分かりやすい情報提供に努めていきます。

■人づくり

Q. 人口減少・労働力不足の中、市民と行政の連携が不可欠であり、地域全体でまちを元気にするために取り組んでいく必要があるのでは？

A. 市と地域団体や市民、そして学生も一緒に行うイベントなど、若い人材を育てる取組についても連携を検討していきます。

■協働

Q. デジタル化が進む中、高齢者などを取り残さないためには何が必要か？

A. スマホ教室等の支援を継続するとともに、実際に操作する機会や個別に相談できる体制が必要だと考えています。

Q. 市民と行政が協働し、地域全体でまちを元気にする取組を進めてほしい。

A. 市と地域団体が継続的に対話する機会を設け、現場の声を施策へ反映するなど、連携して取り組みます。